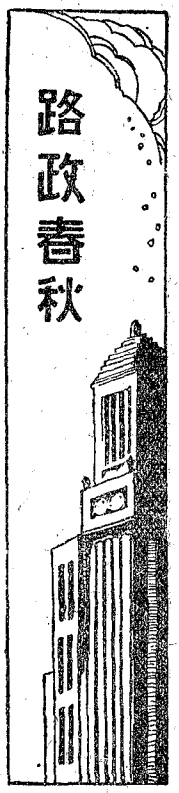

注意

本欄は讀者諸氏の利用に提供す。治安と風俗とを害し又は人身攻撃に渡らざる限奇想天外的の寄稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

豆隧道の開通も時代の作用か

本土と九州とをガッチリと結び付ける國道隧道と國鐵トンネルの起工式が前後して片や木戸内相片や前田鐵相臨場の下に擧行せられたが其の本工事の先行工作としていづれも所謂豆トンネルが開鑿せられそれが開通した、國道の豆トンはアノ、ハヤトモの急湍の海底深く掘り貫くので斷層と湧水の爲に惱ましき作業を續けた、自然力のいたづらな邪魔立ても遂に征服された、之も當局の不撓の努力の致する所であるが時代の作用も見逃してはならないことである。時代の力の强きは自然力を征服し、やがてはメガリの神も驚くべきガソリンの臭が海底から吹き出さるゝことゝなるのである。

天下の嶮も何のその

紀勢の嶮は箱根の嶮もたゞならず矢川峠や評議峠の山腹も忽ち穿つ鑿岩機、爆破の響は熊野灘の波濤を壓す土工の技、三重の南端木本尾鷲間の最難工事である鐵路はトンネルの數も六ケ所で大吹、淺若、伊賀谷など硬質帶もあつて技術上相當苦心を要するものであるがやがては之を征服し紀勢東線も其の線路を熊野川に伸ばす日も遠くはてるまい、土木技術の力强きも事實に依つあ證明さるゝのである。

愛護精神の昂揚は一郷の光と成る

道路愛護の精神が漸時普及し行くことは道路整備上から歡喜に堪へない次第であるが何事にも愛護の精神を昂揚することが必要である、資源愛護の美談を聞くさへも愉快に感ずる其の一美談の新聞記事を紹介する。

「將來の村の繁榮を目指し獨力長期造林に從事し見事素志を貫徹して部落から造林の碑を建てられた非常時資源愛護の模範たる老翁の美談がある、山梨縣北都留郡七保村下和田幡野萬作(六八)が其の人で明治四十年十二月植林で將來村を富ませようと遠大

の計畫を樹て三十五町歩へ植樹を開始したが村民は同氏の計畫に反對し草苅やはぎ取りが出來ず貧乏人は困ると目先の事ばかり考へて同氏の實行もこのため度々暗礁に乘り上げたが實行あるのみと默々植樹をなし以來二十年でやつと村民から感謝されてその後昭和三年三十五町歩を倍に擴げ昨年同氏の育てたものは全部伐採賣却これが同村の小學校建築、御眞影奉安所、貯水池、神社拜殿の基金となつて村を富ませたもので同氏の努力に酬ゆるため部落民は春日神社境内に造林の碑を建立した、同氏は目下第二次計畫の一萬本植樹に樂しい夢を描いて働いてゐる」と。

大根は二葉から

梅檀は双葉より香しとの諺は聞けど良き大根も二葉よりとお百姓の間引の秘訣が傳へられて來た、それは渡邊千葉縣農業技師の發見に係る實際的な研究の結晶である、同技師が日本農會に提出された報告によると大根の間引の際子葉の形に注意すれば間違ひなく望み通りの大根を收穫することが出來るといふ過去七ケ年に亙る實驗的結論であり、農家が直接栽培上の革命的な恩惠を受けるのは勿論、近時前線食料として夥しい澤庵漬が送られてをり年々三千萬圓の澤庵漬を消化してゐる日本人に取つてもまた大きな福音をもたらすものとされてゐるこの研究に着手したのは昭和八年で同年から十一年までを豫備實驗期間とし更に十一年から本年までを完成期間として日本内地産の各種大根について實驗を進めた結果、大根の子葉を丸ハート型、長ハート型、角ハート型、正ハート型の四種に大別することをこの研究の骨子としてゐるが實際的にはこの子葉の種類は大根の品種と特殊な聯繫をもつてをり葉の型はそれ〴〵の大根の種類によつて、決定されるといふ譯例へば二年子大根では長ハート型の根型が一番よく、練馬大根では正ハート型で斷然優秀な根型を得るといふのであつて、農家は二年子大根は長ハート型を、練馬大根は正ハート型を間引かぬやうに殘しておけば收穫期に入つて肉質、色彩、榮養各方面に申分ない大根が得られる從つて澤庵漬などの場合は型が整然として屑がないといふ結果を得るわけだ。

今日の官吏も優生的成育の方法はなきものかナ。

あるかなきかの珍聞奇譚(26)

○南海土佐の偉人の眞蹟　土佐の産んだ偉人野中兼山は南學の實踐家である、其の眞蹟の本山捉なるものが發見された其の原文は次の通り

一、公儀御法度相背間敷事

一、荒地少しも無之樣に隨分開き田地に可仕候精を入れ開候はゞ褒賞可遣候、其上所により三年五年七年の内作り取りに可仕候事

一、貢物無未道霜月限可皆濟候畠方分未進

候はゞ明る六月限皆濟可仕事

一、三分一百姓取米内も秋冬は雜炊其にてもたべ可申候、春まで貯へず秋冬の内むざと飲酒に仕たべ候はゞ可令成敗庄屋方へ吟味仕り背く者於有之は急度可申聞候隱し置候はゞ後日に聞屆け候共庄屋可爲曲事こと。

一、酒買たべ申間敷候朝寢仕間敷候相背き候はゞ爲過怠銀子三匁宛可召置事

一、春は田かへし夏は草きり秋は收め冬は麥まき其時を失はざるように精を入れ少しも油斷仕間敷候、家普請等仕り候はゞ耕作の際に可仕事

一、蠶かひ候事存候者は屋敷廻り桑の木を並木に植へ置き蠶かひ可申不存者は漆の木植へ可申茶椿貝外年貢の便に可成木は植へ可申用に不立木一本も植申間敷候右の木植へさせ木に掛る年貢可取とこの事にて無之候間隨分植へ置き少しの便に可仕候相背き候はゞ本人不及申庄屋可爲曲事こと

一、家居並に衣類見苦しく候ても不苦候間少しも過ぎたること仕間敷こと。

一、何事によらず此方より申付候事少しも油斷仕間敷滯候はゞ庄屋儀は不及申百姓曲事に可申付事

一、萬事油斷なく少しも只居不仕耕作に精を入れ能く仕付候ものには褒美可遣事

一、檢見催促に遣候者賄ひのこと飯汁のほか一つも調出し申間敷不及申酒堅く出し申間敷事右之趣堅く相守候我等聽て越見可申候、相背候はゞ本人は不及申庄屋曲事は可申付所もクツロギ能成候はゞ庄屋に褒美可遣事

寛永二十年六月三日

主計　良繼　花押

本山庄屋次郎左衞門

惣百姓中

一讀して農民の勤儉力行から法規の嚴守役人の不正警告が認めらるゝのである。

○古文書發見され春宵の話題となる　所は島根縣簸川郡田儀村で二百四十八年前の藩主松平綱近の美政を物語る古文書が發見された其の證文は次の通り

（證文の全文）神門郡口多山村市右衞門儀年來老母に孝行比類なきの由城下の組頭庄屋年寄五人組など連判の書付をもつてこれを訟ふるについて詮議をとげいよ〳〵相違これなく條則御聽に達し候ところ平生純孝これにより御感心遊ばされ古來より無所持の田地たりといへども今般田高五石の地ならびに屋舗五畝四歩のところすべて年貢はこれを免許せられ永代下し置かるゝ旨仰出さるゝものなり。

元祿四年二月十一日

柳橋玄蕃、柳田主計、大橋茂右衞門、乙部九郎兵衞

此の古文書に絡まる美談は斯うである。

市右衞門は早くから父を失ひ母に仕へる身になりその母は魚を好んだので朝夕の食膳にはこの魚を絶やさず、また暑さきびしい時には涼しい木蔭に母を伴ひ寒さ肌をさすやうな嚴寒には特に床を暖めていつも母

を大切に心がけお宮のお祭りお寺の法會、あるひは物見遊山の時には老いたる母を背負うて出かけ母を喜ばせた、元祿三年大守松平公が國々をまはつた時にも母を背負うて殿樣の行列を見に出かけこれが殿樣の眼にとまり田地宅地を褒美に貰つたのである。

市右衞門は六十歳で死去したが公益事業として田儀川に沿ふ水田が川底より高いため川水を利用することが出來ないのを殘念に思ひ同志の人と相談して川上に堰を作り川水をひくことを思ひ立ち七百メートルばかりの間岩石を碎きあるひは急な崖を掘り崩しながら井戸を掘り水利の便をはかつたがさらにこれをのばして町向ふにいたるまでさらに七百メートル餘の水路を作らうと鶴山のふもとのかたい岩や土を切取り井戸を完成した、この井戸が出來たため町向ふにある一町五段餘の畑も立派な田になりこの井戸を今も畑田井戸といつてゐる。

× × × ×

箱根遊記

坂本佐知

春日うらら　山路はいま
花ざかり
山かぜに　谷かぜに
空にまひ　谷にちりゆく
花の一ひら一ひらに
春のなごりを